資料通報（B）第46號

（中国派遣軍3D関係会同成果・資料）

昭和二五年九月一五日

留守業務部第三課

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第三師團

師團長　陸軍中將　山本三男（18 3 25以降）
〃　辰巳榮一（20 3 1以降）

一、行動概要

師團は1810～1911月上旬迄常德作戰參加兵力を原駐地漢山附近に集結し次期作戰を準備した後第十一軍の企圖する湘桂作戰參加の爲19 4月廉山を出發漢口地區に進出した

／湘桂作戰（1944 29～1912 9）

本作戰に於て師團は軍の左翼兵團として後續の34Dと共に東方より敵の執拗な壓迫に對し武昌―崇陽―咸陽―茶陵―來陽道に橋壁陣を構成しつゝ南下を排除擊退して軍の左側面を掩護し以て軍主力の衡陽攻撃を容易ならしめた

次いで漢口に於て1910 9編成を完結せる第六方面軍が南岳地區に進出して本作戰を統轄指揮するに及び、天候の不良と敵機の跳梁を克服して誠意、桂林、柳州方面に向ふ方面軍の作戰企圖に基き兵團の渡河する第十一軍は十月末攻勢前進を開始した

即ち兵團は紫安鎮面の敵を其の左側背より是を包圍する如く道縣―永明―冨川―平樂―鹿浦―修仁を經て鹿寨鎮に進出し以て軍主力の桂林攻略を容易ならしめた（第五航空軍協力の下に37D 40D 58Dは11月10日桂林を攻略す）

當時廣東方面より進撃を續け十月末象州、武江、武宣を占領した23Aは第十一軍の行動に東應して敗敵を一擧に柳州南方地區に壓迫するに及び、十一月九日第十一軍は努めて多くの兵力を宜山方向に突進して敵の退路を遮斷し敵主力を柳州西方地區に捕捉殲滅するの機熟したが此の間各軍兵團間通信連絡杜絶し爲に其の機を逸した

十一月十日十時二十三軍の指揮下に入つた13Dの一部は柳州城を攻略した、兵團は軍命令に基き13Dと共に柳城宜山周邊に彷徨する敵を追撃殲滅し地形の峻嶮を克服し補給困難に堪へ敗退中の敵及此の頃戰場に現出する新來の增援部隊を撃破急追しつゝ德勝―思恩―明關を經て深く貴州省板寨―獨山方面に突進し十二月八日八寨獨山を占領し敵空軍基地を覆滅し且登面の敵主力を遮斷して既ね作戰目的を達成したので軍の反轉に基き爾後湘桂鐵道の各要域を確保すべく思恩―勝德―宜山―大塘―思練塘―を經て大賢村附近に兵力を集結し警備態勢に移行した

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	1 2
分割撮影した理由	A3版以上のため
文書等名	第3師団行動経路各図

上記のとおり分割撮影したことを証明する。

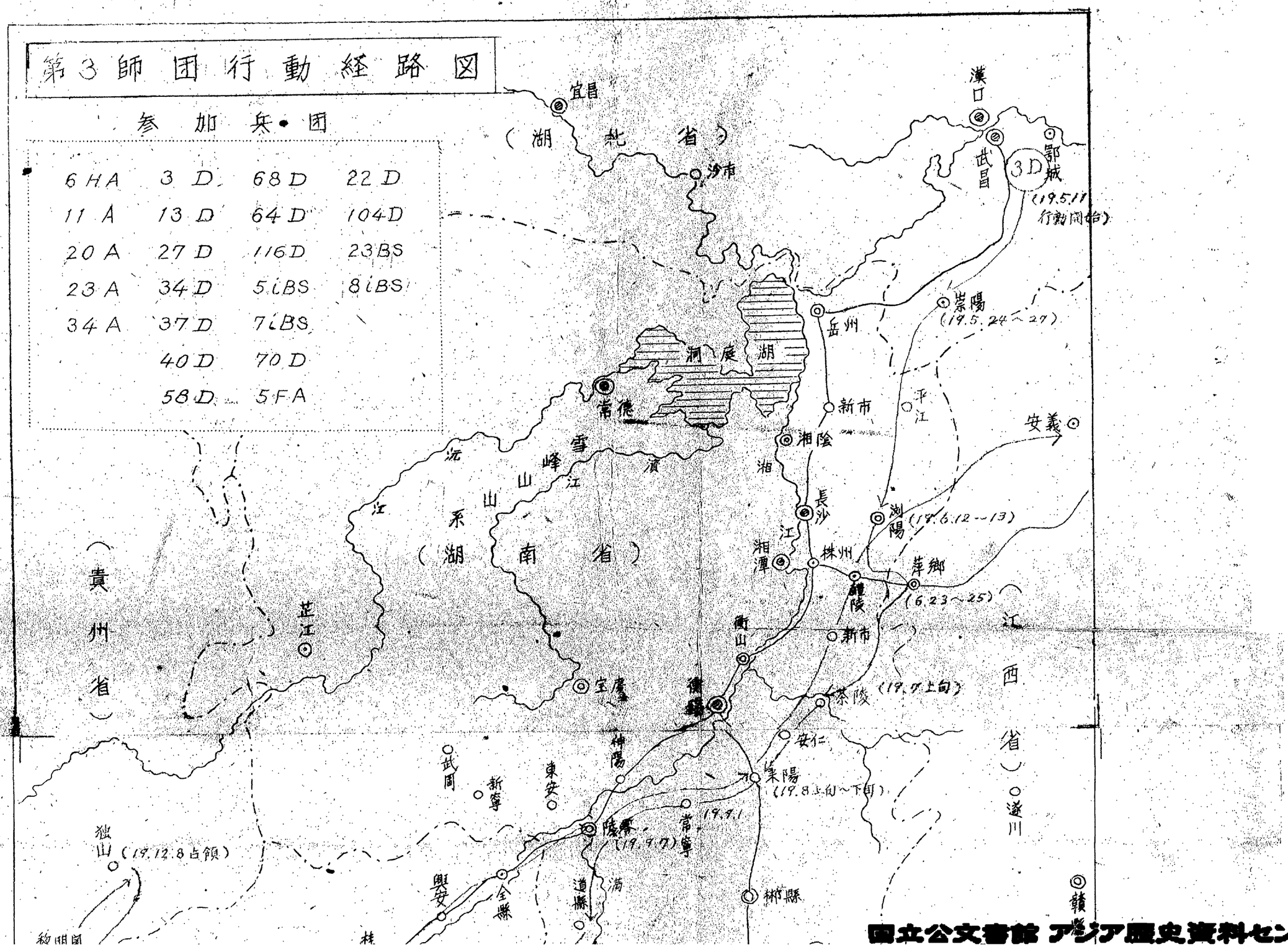
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

0662
0663

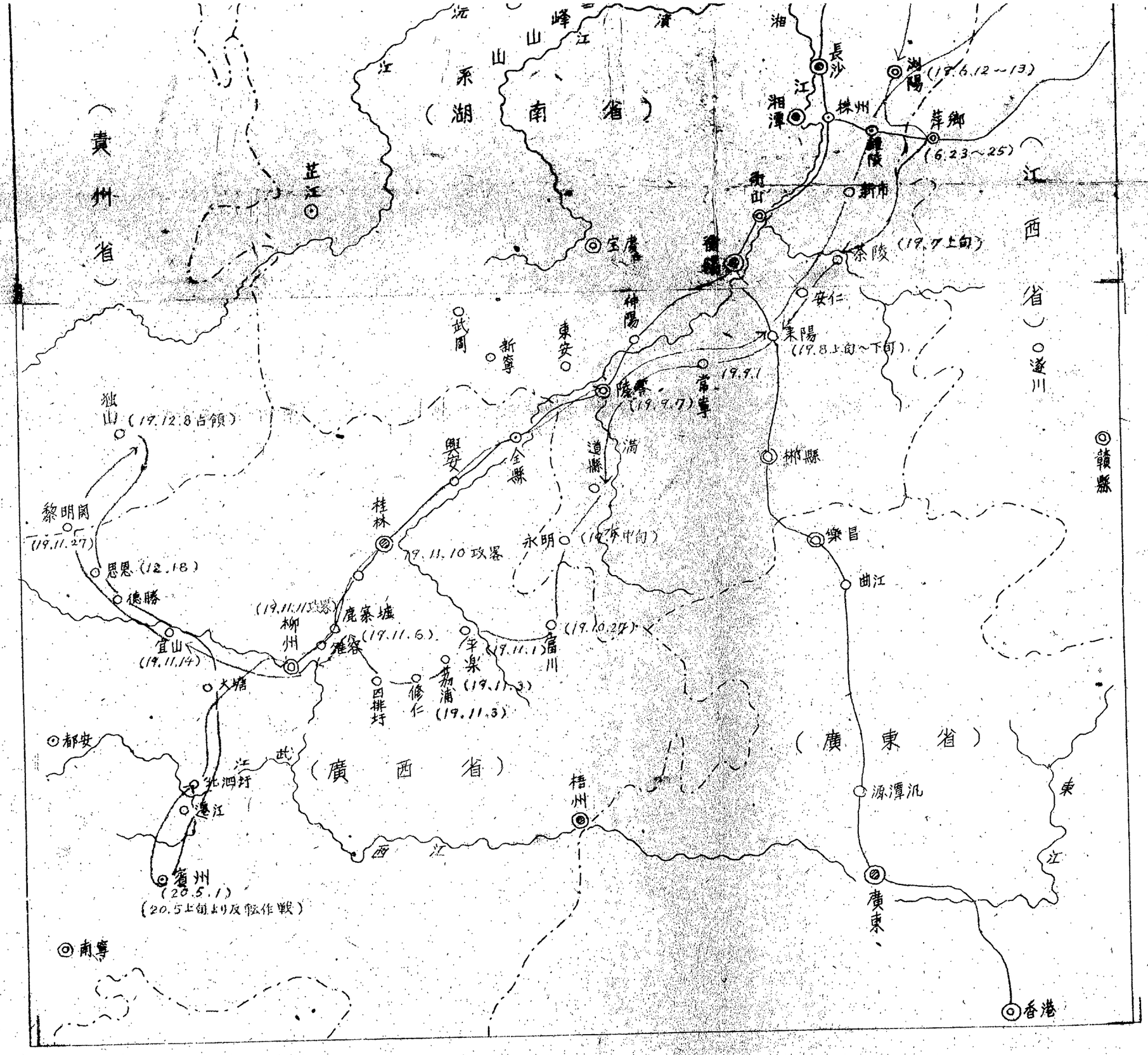
第3師団行動経路図

参加兵・団

6 HA	3 D	68 D	22 D
11 A	13 D	64 D	104 D
20 A	27 D	116 D	23 BS
23 A	34 D	5 iBS	8 iBS
34 A	37 D	7 iBS	
	40 D	70 D	
	58 D	5 FA	



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

第一野戰病院

編成裝備
人員
軍醫13 藥官2
衛將2 主計1
准下士65 兵185
馬匹80
醫材 病院醫材1組
兵器 小銃30
病院長
軍醫少佐 花崎勝三
〃 大尉 吉田俊夫

(19 1 6)信陽に野病、黃陂に患者療養所開設
(19 4 29)全力を以て湘桂作戰參加
(19 12 9)(野病)浏陽縣界嶂(6 8 — 6 10)茶陵(7 15 — 7 21)來陽縣小水舖(8 6 — 8 12)三樓橋(8 13 — 8 28)永明(9 28 — 10 25)

患療
患集
武昌(5 13 — 5 19)零陵(9 9 — 10 20)患集開設
平江縣忘私橋(6 1 — 6 4)浏陽縣石坝(6 14 — 6 19)
萍鄉縣便竹背(6 24 — 6 25)醴陵縣東門塘(6 28 — 7 1)
佛州(11 11 — 11 17)思恩(11 28 — 12 13)患療開設
貴土嶺(7 3 — 7 4)江華縣江華(9 28 — 10 19)
19 12 10 湘桂作戰終了後主力は忻城縣に患療開設
を一部を以て忻城
(20 1 20 — 20 2 21)忻城縣大塘坪(19 12 27 — 20 4 12)上林縣古峰坪
(20 3 25 — 20 5 5)都安作戰の爲第一半部を司令部へ第二半部
を第三師團に配屬

編成裝備右に同じ
病院長
軍醫少佐 福留英一

芦後患集(19 6 7 — 6 8)浏陽縣双計墟集(6 10 — 6 22)樟樹橋患集(6 12 — 6 15)醴陵縣桂水鋪患集(19 6 26 — 7 18)
來陽野病(19 8 8 — 9 1)苅浦患療(11 6 — 12 26)河里坪野病
(19 12 27 — 20 6 1)柳江縣白見村(20 6 5 — 6 18)
平江患集(19 6 2 — 6 3)安仁野病第二半部(19 7 5 — 7 31)
五里牌患療(19 9 25 — 10 22)宜山患療(11 22 — 12 29)新村(19 12 25 — 20 3 18)大湾塘(20 3 30 — 4 10)

第四野戰病院

編成裝備
人員 概ね右に同じ
病院長
軍醫少佐 稻見吉次
〃 大尉 村田 萃

湘桂作戰參加の爲浙河出發武昌崇陽を經て平江に野病開設(19 4 15 — 6 5)浏陽(6 14 — 6 24)醴陵 — 攸縣(7 9 — 7 24)
茶陵(7 19 — 8 18)來陽 — 道縣野病(9 8 — 10 13)廣西省柳州方面へ南進司令部直轄となり柳州攻略戰參加柳州野病(11 17 — 12 30)南寧に進出(20 2 28)
(20 3 25 — 20 5 3)都安作戰參加
(20 5 4 — 20 8 14)湘桂、轉作戰、廣西省賓陽 — 金縣 — 來陽
攸縣 — 醴陵 — 江西省高安 — 九江終戰

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

三、陽以南兵站病院

病院名	位置及期間	状況	病院長
第一三二兵站病院	（零陵）19 20 / 10 8 / 20	前進途次岳州に於て爆撃に遭ひ医療、器具、薬品、寝具等全滅したので一二八兵站病院より医療班一組を譲り受け開設した本道より二粁離れた民家を利用疎開し施設極めて不完全給養も良 常時一二〇〇の患者を收容、桂柳方面よりの後送患者大部分にして主として衡陽一二八兵病長沙方面へ自動車により後送した（同氣、栄養失調症）周辺の敵情悪く二回程襲撃を受けたことがある祁陽、洪橋に患者療養所を開設した	軍医中佐 芳賀智政
第一八一兵站病院（班五一第病院補予駐屯）（全滅）	19 10 10	湘江に沿へ本部及内科、周辺敵情悪く対岸より射撃を受けた事がある 桂林街道に面して疫着外科及内科の一部があり疫着本部間に傷寒病棟があつた、度々空襲を受けたが分散疎開してゐたので被害を免れた（六ヶ所分散）土間に藁を敷き19年冬到来するも満足毛布の類皆無にして藁でこもを編み重症者に着せた程の惨状であつた 無薬品の極度の缺乏にひしを得ず薬草をとつて薬品を作り手持薬品を無料送に於大病の看護員の奮闘	軍医中佐 長田禮司
第一四〇兵站病院	（桂林）19 20 / 10 7 / 31	学校跡を利用し施設稍々良好患者は主として南寧方面より撤退の衛生機関より引継ぎ後送は自動車により衡陽第一二八兵站病院へ後送は相當急速を要したので混乱した、輸送不適應者で輸送途次の死亡者も相當あつた模様、	軍医中佐 山下茂雄
第一八三兵站病院（班一四ヨ）	（柳州）19 20 / 12 6 / 31 20 （3D 4FL を編成）	中國軍の陸軍病院跡を利用（一部民家）したので施設は良好で作戦間を通じ給養面も最良の状況であつた 收容患者、死亡者等の細部は入患名簿がないので不明である 患者は主として3D 13D所屬者で後送は桂林第一四〇兵站へ、長期治療を要するものは拉保街第一八二兵站病院へ轉送された	軍医中佐 八幡幹利

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

病院名	位置及期間	況	病院名
第一八二兵站病院（ヨ3班）	柳州（拉堡街） 20 1上旬 20 6下旬	相潭（19 6初旬－19 6下旬）板塘舗（19 6下旬－19 7中旬）易俗河（19 7下旬－19 11上旬） 易俗河の施設其の他は完全にして軍々醫部長より當詞を受けた、衡陽方面に19 9上旬以降コレラ發生に伴ひ本地區北へコレラ菌の侵入を防止する爲特殊防疫任務に服した 患者給養の向上をはかる爲糧秣收集班を編成し給養の万全を期した 20 1上旬柳州南方四里拉堡街に開設後は主として13D柳州、南寧方面部隊患者を收容、平均一〇〇〇名位、同時熱チブス患者多數柳州へ後送した死亡者の處理は完全である 20 6下旬撤退に當り追尾する敵と應戰しつゝ後退した	軍醫中佐 八井田 良實

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

四、究明對象人員の部隊別府縣別一覽表は次の通りである

第三師團關係狀況不明者一覽表

部隊＼府縣	靜岡	愛知	岐阜	新潟	奈良	計
歩六連	1	(1) 12				(1) 13
歩六八連	1	2	7	1		11
歩三四連	(1) 27	1				(1) 28
野砲三連	4	6	1			11
輜重三連	2	2	3			7
騎三連	1	1				2
工三連	(1) 1				1	(1) 2
三師兵動		1				1
衛生隊		1				1
野病	1	2				3
合計	(2) 38	(1) 28	11	1	1	(3) 79

(　)内は生死不明者を示す

本表外長野縣關係　迫四大一

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

調査究明の便宜上患者群を大別すると次の通りである

武昌！醴陵地區　七名
茶陵、安仁、衆陽地區　七名
常寧！柳州地區　四名
新市地區　一五名
長沙地區　一一名
易俗河地區　六名
衡山地區　五名
湘陽地區　七名
零陵地區　二名
全縣地區　一一名
常德地區　一名
末追及補充員　一四名
滿洲後送患者　八名
天津地區　二名
生死不明者　三名

八三名

4. 昌！醴陵地區（七名）

昭19年月日不明第一五九兵站病院入院の61槇松明一に就いては新資料を得られなかつた

平江地區

1945.25.闘氣に上り平江縣忘私橋第一野病患者療養所入院の341武田德一は1946.4.FLへ轉送失いて4DL轉進に伴ひ平江南方約一粁王家坪野戰病院へ引續き療養中1946.9.戰爭榮養失調症により戰病死した事實が判明した同病院患者名簿に武澤とあるのは武田の誤りと思料される（武澤なる者は341に在隊しない又神谷繁雄が本事實を現認してある）

平江！新市間三五粁平江附近の患者は陸路（途中長樂街に一泊）又は洞水路を船舶により新市へ後送されてゐる

浏陽地區

1968.浏陽縣界碑第一野戰病院入院の341平野正滿は1946.14.3D衛生隊に引渡され爾後不明となつてゐるが同地に入院其の後治癒歸隊した佐々木嘉明の言によれば長沙迄は一緒に後送されたと證言してゐる

浏陽地區患者は一般に陸路又は浏陽河を舟艇により下航長沙第二一班へ後送されてゐる、途中敵情悪く患者輸送隊が敵襲を受けた事例は屢々である民船を徵發して長沙方面へ下航中の27D退院患者で數名の生死不明を出した例もある

醴陵地區

61阿部信一は1973醴陵縣桂水鄉2FL患者集合所に入院14治癒退院

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

し6CI奥田軍曹指揮の下に部隊過及中19 7 30醴陵南方七料附近に於て生死不明となつたものであるが調査の結果34I五十嵐美代治と同一状況で生死不明となつた事實が五十嵐美代治の生死不明者調書により判明した。五十嵐は既に死亡認定済である尚奥田軍曹に對し目下當時の状況詳細を照會中である

19 7 6 2 FL桂水咀患者集合所入院の34L伊藤快夫及27T津田藏雄は同集合所が閉鎖前進するに方り同所に後送開設の第二十七師團第四野戰病院に引繼轉送された、午後同地區患者は長沙方面へ後送されつゝある

が輜重隊松岡正男の證言によれば同地區の患者は一般に醴陵270D及び岩本支隊野病へ引繼後株州野予備第三班を經て漢口方面へ轉送されたとあるが此は十月以降のものである

19 6 24 急性大腸炎により4FL第二野戰病院第二半部入院の6I堀之内弘は19 6 25 1FL郷鄕徳竹背患者集合所に轉送次いで第三師團衛生隊へ引繼されたが其の後調査の結果緑口1湘陰1 19 7 26岳州兵站病院へ轉入19 8 2武漢地區へ轉送された事實が判明した（患者名簿）

留守宅資料によれば戰友の言20 8 朔州病院に於て本人に遭つたとあるも其の出所及確度疑はしい

[illegible]

安仁地區野病湖設間の患者で不明は一名もない

來陽周邊病院群の狀況を一覽する

第一野病小水舖（19 8 6 1 8 12）

第二野病（龍王庙？）（19 8 8 1 9 1）

第三十四師團野病（19 9 2 1 9 30）來陽城外西北隅民家を利用

第二野戰病院收容患者約二〇〇團野戰病院へ申繼がれたが該病院は自隊患者約四〇〇を前進して來陽へ到着し又來陽附近には34D先着部隊の患者約一三〇〇滯留しありて一時に總計約二〇〇〇を收容する事となり患者の受授收容に相當混亂を呈した模様である、當時來陽には軍關係兵站病院の開設なく34D野病が全部是を收容するの余儀ない狀況で戰爭榮養失調に基く死亡續出し病院管理も不完全で收容に際し部隊氏名等不詳のものもあつた

患者は一回五〇〇名位宛四回程衡陽方面へ馬送、擔送、護送されたが衡陽周邊にコレラ蔓延するに及び34D患者收容隊により衡山方面へ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

後送されたことがある

而して34D野病は引繰患者を先に後送したと言ふ（34D FL庶務主任富田中尉提供）

第二野戰病院の轉進に際し19 9 1 34D FLへ引繰がれた迫四大辻光男3T山川正一、34I影山茂、68T坂内二郎、1FL鈴木暉市及19 8 26来陽は於て後送を依頼した3T小森庄太郎19 8 16来陽患者に入院した岩邊秀人は34I患者收容隊により九月上旬衡陽方面へ後送されたものと判断される

19 8下旬來陽を出發し常寧1等隊に向ふ作戰行動中落伍し13D 1FL（白鷺町）に收容された3A松下康平に就いては新資料を得られなかつたが、同病院の狀況を調査する必要がある十一月上旬兵團が軍命令により包圍殲滅態勢を整へ鹿峯鎮附近基き興安桂林正面の敵の左側背より進出し更に敗退する敵を柳州西方地區に捕捉すべく宜山方面に突進（準備中19 11 7）士氣により荔浦第二野戰病院患者に入院した3A堀部善一は19 11 24患者輸送第二十二班へ申送り柳州方面へ前送された19 12月上旬治癒退院隊復歸し約二ヶ月間勤務した後昭20 2月始め部隊が敵襲を受け本人は勇敢奮斗中不幸戰死した（皮部貫通銃創を受け戰死）と同隊永瀬重雄が證言してゐる、3時期所等詳でないが第六中隊長殿殿、隊長衛生兵が當時の狀況を承知どでゐる善日下國人に就き照會中である

尚20 7 22第一二八兵站病院に同姓同名の者が轉入してゐるが檜兵團獨歩六二大隊とあつて同名異人である事が判明した

柳州周邊地區に於て夫々發病入院した3A立川榮太郎及34I佐藤八郎に關する新資料は得られなかつた

全縣地區（一名）

20 5 31全縣、第一八一兵站病院の68I今峰秀夫は世話課資料によれば約一週間位で退院し上海地區に傾在とあるが其の出所及確度に關し調査の要がある

全縣周邊の狀況に就いては前記第一八一兵站病院の概況に記述した通りであるが廣西土民は其の性慓悍にして敵意旺盛で我將兵の是に對する被害は相當大きい模樣である

一全縣より六粁程離れた界首街へ34D野戰病院關係者が分遣中、20 5 14頃界首街より四里程離れた部落で3Dの兵四名（上等兵二、一等兵二）民家に就寢中土匪の襲撃を受けたものゝ如く惨死体を發見した直に部隊へ連絡通報したが其の處理結果は不明である」との資料を

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

提供してゐるものがある

零陵地區（二名）

補充員として部隊追及中毒氣に上り19 10 13第一野病入院患者輸送第二十二班に後送されて19 10 20零陵第一野病の患者集合所へ轉入した34I數崎大次及19 9 10急性腸炎により第一第一野病入院19 10 7患者輸送第二十二班により零陵第一野病患者集合所へ入所した、鈴木孝一に就いては新資料は得られなかつたが零陵第一三二兵站病院へ收容後衡陽方面へ後送されたものと判斷される

衡陽地區（七名）

19 8 24胸膜炎により揚家坳野戰病院入院（マラリヤ）の3T平野隆及急兒はコレラ疑性19 10 3 68D野戰病院へ入院の3A横井俊夫は時期的に注氣管支炎により19 10 6 68D野戰病院へ後送されたものと判斷され見て三板橋或は衡山第一二八兵站病院へ後送る、19 5 22浯口上陸後入院一補充員）不明中の34I長島敏夫は19 8 19三板橋第一二八兵站病院へ入院19 7 7新市第二十一班へ入院19 7 13治癒退院し34I堀内太一は部隊追及途上19 9 25脚氣により第一二八[illegible]安作戰病院第二野戰病院へ轉送20 5 12衡州第一八三兵站病院へ轉送20 5 17後方病院へ後送20 5 30衡陽第一八二兵站病院へ轉入したもの5 7第二野戰病院へ轉送20 4 28第一野戰病院中20 4 28第一野戰病院第二半部に入院二名性腸炎1 29兵器勤務隊小島留吉は19 9 15祁陽野戰予備病院第十五班へ入院10 27轉送され11 20衡陽第一二八兵站病院へ轉入したもの以上三名は第一二八兵站病院收容後の不明者であるが其の原因は書類流失した爲と判斷される

衡山地區（五名）

34I村上勝敏は19 7 24（内科）茶陵第一野戰病院より攸縣第四野戰病院に轉入19 7 29第三師團兵站輜重中隊が轉送19 8 21衡山第一二八兵站病院患者療養所へ轉入19 9 26治癒退院し、34I鈴木正夫は19 7 11急性腸炎にて茶陵縣石鼓台第一野戰病院入院19 10 18衡山轉入19 12 15治癒退院し、34I海野金一は19 7 足背部火傷により第四野戰病院入院19 8 25衡山へ轉入19 8 31治癒退院したものであるが以上三名は退院後部隊追及したるが八月下旬部隊は來陽附近より第二次行動を開始し常寧1零陵1道縣1柳州方面へ進撃中であつたから衡陽1全縣1桂林1柳州道を柳州方面へ追及したと思料される（追及途上の事故）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

3k 補充和一は19 9 29 軍協に入り衡山第一二八兵站病院入院、37 酒村
章は19 8 15 肺結核急性膿炎により第六十八師團野戰病院（衡山）に
入院とあるが第六十八師團野戰病院は19 8 13 は既に衡陽南方黄茶嶺に進
出してゐたから場所は黄茶嶺の誤りと判斷される二名共新資料を得
られなかつた

易俗河地區（一六名）

19 8 15 板塘鋪野戰予備病院第三班を治癒退院した34 I 高橋孝吉及3 高
橋德一及19 9 23 治癒退院した3I 緩緩豊は衡山―衡陽―全縣―柳州道
を部隊追及途上事故者と判斷される
34I 牧野雄一は19 8 7 易俗河野戰予備病院第三班へ入院19 8 30 後方病
院へ轉送34 山田信夫は19 7 5 左足骨折貫通銃創により茶陵第四野戰
病院第二半部へ入院19 7 9 攸縣第四野戰病院へ爾後逐次後送されて
19 8 9 易俗河へ轉入

5 天野秀次は19 7 18 攸縣第四野戰病院入院19 7 24 轉送されて衡山第
一二八兵站病院患者療養所へ次いで19 8 18 易俗河野戰予備病院第三
班へ轉入したが右南名は夫々19 8 22 後方病院へ後送された時期に
是て敵軍病院は長沙野戰予備病院第二十一班と判斷される

34 吉田正一は攸縣第四野戰病院入院19 7 24 轉送されて衡山第一二八
部隊に於て教育を6 22 武自集結19 7 1 部隊追及途中失踪を置し行
軍下利患者落伍者續出本人も19 7 中頃長沙野戰予備病院第二十一班
へ入院其の後戰病死したと思料される（中田太郎供）
但し留守名簿に上れば19 9 21 同系により長沙野戰予病第二十一班入院
とあり入院の月日が齟齬してゐる、前者が正當と思料する

新市地區（一五名）

新市野戰予備病院第十五班患者は通過部隊及平江方面作戰部隊のも
のが大部分で平江方面よりするものは平江―新市道三十五粁を途中
長樂街に一泊新市に轉入するものと泊水を水路下航するものとがあ
つた、19 7 7 夜新市が燒盡を受けて大混亂を呈してゐる最中舟延
により泊水を下航約一五〇〇の患者が新市に到着し、是が收容受授
に約一週間を要した事例がある患者の大部は3D 34D 關係者で其の後治
癒退院した者中不明者が多數出てゐる
34I 青木一義以下十五名の者は其の大部分平江方面よりの轉入者で19
7 1 19 8 上旬退院部隊追及中不明となつたものである
部隊が未だ醴陵附近行動中新市を退院した者は新市―平江―醴陵道

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

を追及した事実であるが本道は殘敵の蠢動絶えず補充員、退院患者の小行動群の敵襲に遭つたもの少く地理不明の地域を夜行軍するので落伍者も相當あつた

本隊との距離も相當あり途中隊列を調整しつゝ而も行動群の指揮掌握不完全に基く離隊者、落伍者を生じたので衛生本隊に追及出來たものは其の半數位であつた落伍者は自動車便を待機し幸に便乘出來ても敵機の爆撃に遭ひ目動軍諸共業の最後を遂げたものも相當あつた

19 7 11 退院者は同夜將校の指揮する補充交代要員部隊と連絡がとれて行動を共にしたが約一ケ月後に本隊に追及する事が出來た（68I岩田茂提供）

3A 佐田正路、青山育二、68I 多田正一は同時期退院者であるが是と行動を共にしたかどうかは不明である、神谷桑雄提供の資料によれば佐田正路は長沙近同行し長沙で別れたと

19 7 17 退院者は二十名位の班を編成し長沙に向ひ前進中後続掃射を受け二名戦死、長沙に於て班の編成を解き各自追及した

[illegible]

[illegible]陽で別れたと

34I 波井愚吉は 19 7 13 退院、歩一三三連隊山本昇と同行長沙迄同行し[illegible]なく來たと山本が證言してゐる

部隊追及者の狀況は資料通報第四四號に詳記してあるから參照されたい

常德地區（一名）

3T 加藤正男は常德作戦中 18 12 15 赤痢の爲湖南省澧縣合口の第一野戦病院へ入院 18 12 16 師團衛生隊に後送隊後不明となつたものである、同時期入院者吉田正一の言によれば同地區の患者は澧縣よりヤンマ船二―三隻に分乘、沙市へ出て 12 20 前後沙市に於て退院患者を整理し 12 25 頃対岸五―六隻を以て武昌兵站病院（武漢大學）へ後送されたとあるが本名の狀況に就いては目不明である澧縣より轉送途次死亡したものと判斷される

未追及補充員（一四名）

昭 17 徴集 3A 大橋頼次に就いては同年次兵鈴木[illegible]郎が次の資料を提供してゐる兩名は召集當時より同班で 19 7 28 日頃長沙に向ひ行軍中長沙前方十二粁附近で宿營の際大隊は劇しい下痢を發病し遂朝戦病死

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

したので戰友と共に火葬に付し拾いて部隊追及中19 10 12頃鈴木自身も羅病柳州兵站病院に入院することもなつたので遺骨を戰友朝岡に託したのであるが後朝岡も病歿してしまつたので本名遺骨はどの様に處理されたか不明となつたと、同年次兵近藤豪一も大衛の戰病死に就いて同様の證言をしてゐる

11L 富岡藤雄は部隊調査の書狀況不明者逆名簿によれば195 場別不明野戰病院入院 19 10 9 内遠中部隊第二部隊轉屬とあるも其の後調査の結果 19 6 10 衡陽縣石塊第一野戰病院入院 19 6 18 衡陽病棟家港4FL轉入 19 6 18 患者輸送第三班轉送 19 7 3 衡陽野戰予備病院第十四班轉入 19 7 14 石より轉送以下不明であるが戰友の言によれば一野病補充要員として部隊追及の爲夜行軍中發病落伍し 19 7 下8月頃湖南省衡陽附近で入院した而して入院手續をしたる内藤と云ふ下士官が繰て承知してゐる善と以上の資料により判断するに本名は衡陽野予病第十四班より 19 7 14 長沙方面へ後送后治癒退院し衡陽方面へ部隊追及途中再發入院し 19 10 9 内遠の爲後方病院へ輸送途中戰病死したものと思はれる、

34I 佐々木三郎は留守名簿によれば 20 7 月頃部隊追及中入院とあるが上覽の言によれば長沙迄同行したと

68I 長江良水一昭一五年徵集一は 19 5 25 内地出發部隊追及中不明、阪調査の結果 19 8 8 岳州一二七兵站病院入院 8 17 轉送（患者名簿）の事實判明

6I 加藤賢一は 19 6 10 博多出發 19 7 3 岳州着 7 6 岳州出發行軍により 25 長沙着部隊は 7 28 衡陽に向ひ追及行軍を開始したが本人は弱兵の爲病馬附として長沙に殘置されたと（石川金定の證言）

6I 前田徳夫は 19 5 9 第二次補充要員として内地出發部隊追及中年月日場所不明入院（留守名簿）であるが調査の結果 23 9 戸籍簿上婚姻あるを發見したので歸還と断定

34I 大須賀伴作は 19 10 30 第十一軍（判明？）勤務中部隊追及を命ぜられ出發爾後不明

68I 井鍋三郎は 20 3 20 附留守第三補團司令部を命ぜられ（本土兵備要員一 20 7 漢口殘留隊より自己行李を受領、信陽―北京―滿州―朝鮮經由内地向け出發したが不明となつた滿鮮或は朝鮮に於て終戰となり〇或は中として殘留か

未追及補充員の部隊追及狀況一般に就いては資料通報第四四號を參照されたい

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

漸次後送患者（八名）

新資料を得られなかつた

天津地區（二名）

A櫻井茂雄は月日歸還

68I井上和一郎は19 6 26急性腸炎兼左混性胸膜炎により武昌陸病入院

20 1 7第一五六兵站病院轉入20 2 1天津一五三兵站病院へ轉送され

た事實迄判明した

生死不明者（三名）

P池田正太は18 11 19湖南省澧縣化鼓寺に於て生死不明となつたもの

であるが常德作戰當時のものであり中共公算もなく當時周邊の敵情

より判斷して死亡の公算大

61I竹内喜義341天野正兩名は中共關係者として調査を續行する

結論　資料通報第四四號と同じ

綜合成果

空欄	対象數	死亡歸還	死亡認定（予定）後數	成果比率	招致人員	出席數	出席率
	83	5	2	56	20	77%	43	23	53%

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

死亡判明（五名）

部隊	本籍地	官等氏名	資料
[redacted]			
二補砲一	堀井茂雄	月日不明歸還	
二補砲一	新潟	長谷川[illegible]	19[illegible]9 兵庫第[illegible]補充隊
二補砲一	堀部善一	現歩上 武田德一	1969 王家坪野戰病院第十四班に於て戰病死
補砲一	吉田正一	二國衛上 富岡藤雄	1970? 湖南省衡陽第一二八兵站病院に於て戰病死
二補砲一	大橋續次	一補砲一	1970? 湖南省長沙野戰病院第二一班に於て戰病死
二補砲一	堀部善一	國砲一	2020 上旬廣南省州城附近？戰死

死亡確定通知（五六名）

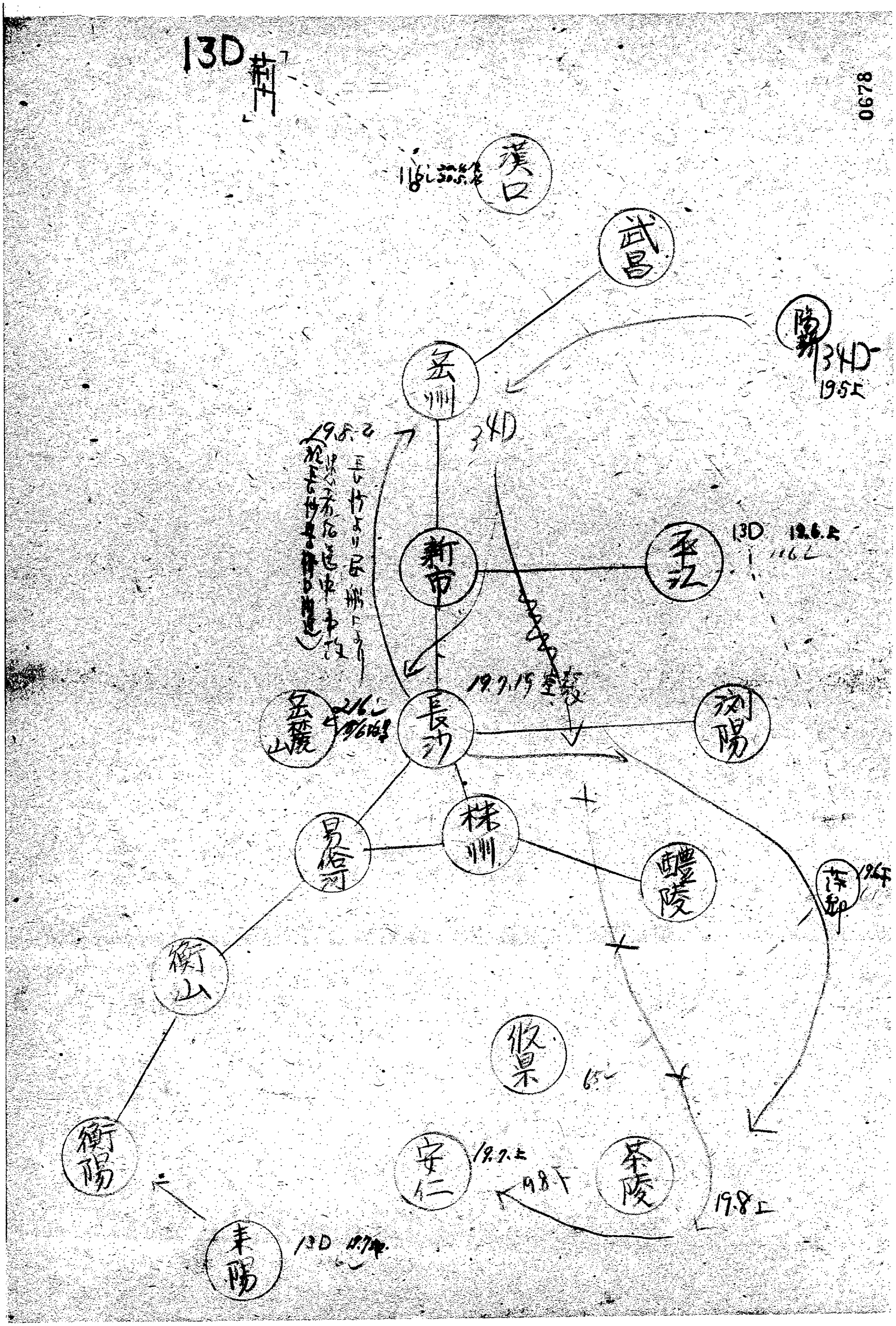
部隊	氏名	縣	部隊	氏名	縣	部隊	氏名	縣
341	伊藤快夫	靜岡	341	出島春雄	靜岡	681	牧野雄一	靜岡
〃	高橋孝吉	〃	〃	佐藤八郎	〃	〃	佐々木三郎	〃
〃	岩邊秀人	〃	〃	藪崎大次	〃	〃	大須賀伊作	〃
〃	水野義男	〃	〃	川本武	〃	〃	伊東源作	〃
〃	影山茂	〃	〃	堀内太一	〃	T	松下勝平	〃
〃	青木一義	〃	〃	長島敏夫	〃	〃	小林修一	〃
〃	渡井益吉	〃	〃	村上勝徹	〃	K	立川榮太郎	靜岡
〃	松本秀	〃	〃	鈴木正夫	〃	P	高橋德一	〃
〃	紙田萬壽男	〃	〃	海野金一	〃	〃	山川正一	〃

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

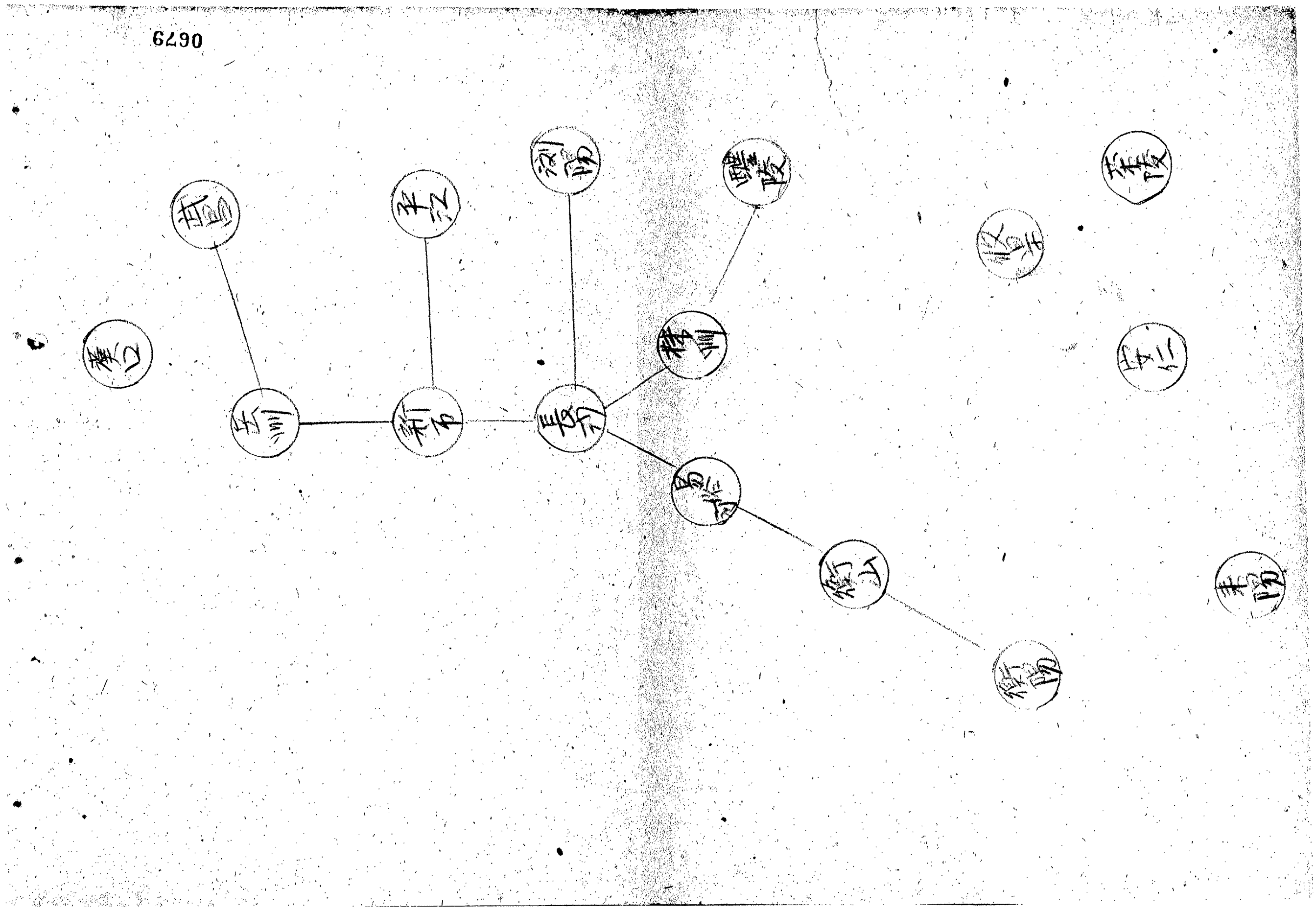
部隊	氏名	県	部隊	氏名	県	部隊	氏名	県
K	福嶋和一	静岡	A	村山育二	愛知	68I	矢島勞津男	岐阜
R	池田正太	〃	〃	福井俊一	〃	〃	長江良水	〃
〃	西村[illegible]	〃	〃	山田信夫	〃	T	纐纈[illegible]	岐阜
23D	鈴木市	〃	〃	大久保馨	〃	T	小森庄太郎	〃
6[illegible]	阿部信一	愛知	K	天野秀次	〃	[illegible]	平野隆	〃
〃	鈴木孝一	〃	[illegible]	津田[illegible]雄	〃	A	佐田正路	〃
〃	加藤[illegible]一	〃	T	加藤正男	〃	68I	坂内二郎	新潟
[illegible]	平[illegible]正[illegible]	〃	[illegible]	竹田[illegible]	〃	[illegible]	西室定信	奈良
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	小[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

0677

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp



国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp